



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一九六号）

りっしゅん
立春

二月四日

餅街道ものがたり展



赤福本店、五十鈴茶屋横の五十鈴蔵で、「餅街道ものがたり展」が始まりました。

江戸の昔、伊勢神宮へお参りする人々のほとんどは、全国各地から街道を歩いて伊勢へやってきました。

東からは東海道を西へ向かい、七里の渡しを船で越えると伊勢桑名の宿場、西からは東海道を鈴鹿の山を越えると伊勢関の宿場。なんでも伊勢国に入ると、その道中に店開きする茶店の餅がたいそうおいしかったとか。それで誰ということもなく、ここは餅街道だ…。

と、江戸の旅人が言ったかどうかはわかりませんが、今も三重県の旧街道沿いには名物餅を看板にする江戸時代にまで創業をさかのぼる店が多いことは確かです。

「餅街道ものがたり展」は、そうした茶店の名物餅をはじめ、当時のお伊勢参りの旅を紹介しています。

一階で目を引いたのは、三択クイズです。江戸時代のお伊勢参りにかかった日数から、コップ一杯の水の値段まで、当時の旅のあれこれが問題になっており、なかなか難しいのです。答えは柄杓をひっくりかえすと書かれています。一問一問答えていくと、少々物知りになった気分。今から何百年も前の江戸時代が少し身近に感じます。

二階ではCGの再現で動く浮世絵などが楽しめます。

私は今回の展示に先だって、江戸時代から続く名物餅の店を訪ねました。すると今では街道を行き交う旅人こそいませんが、近所の常連さんから名物餅目当てにやってきた遠来の客まで、取材中、老舗は様々な人々に支えられていたことを目の当たりにしました。

旅人のお腹を満たしていた街道筋の餅は、今も健在です。五十鈴蔵は朝九時から夕方五時まで無休。入場無料です。

文 千種清美

